

車いす 基本的な流れ

前日

当日使用する車いすと段差板(4枚)の借用
車いすの借用、返却は先生にご対応いただきます。

※借用先は障がい者福祉会館と福祉センターです
※原則、実践教室の前日借用・当日返却をお願いします。
※車いすの台数は**児童・生徒**2名または3名に1台が基本です。



講話

車いすに乗りながらの生活について、車いすに乗っていてもみんなと同じがいいという思い、などの内容の講話をします。
希望の内容と時間を事前に講師と打ち合わせしてください。



体験

＜車いすの乗り方説明＞

車いす利用者と介助者が車いすの組み立て方、乗り方、介助の仕方、注意点を話します。



体験

2人1組または3人1組で車いすに乗る役と介助者に分かれて体験します。
コースを一周したら介助者と交代して全員が体験します。

【コース例】

体育館内、廊下、中庭、体育館の入口などの段差、スロープ、手洗い場で手を洗う



振り返り

児童・生徒に感想や気づいたことを発表していただきます。
その意見を基に、体験の振り返りとまとめのお話をします。

点字 基本的な流れ

資料③



自助具を紹介している様子
(写真は音声時計を紹介しています)



こんなところにも点字がついているよ
(ガムのパッケージ、ポンド、ジャムの瓶など)



音声認識装置を使って制服の色を見て
いる様子



糸通しをしている様子

講話

講話の内容は先生のご希望に合わせてます。希望の内容を打ち合わせ時に講師へお伝えください。

【講話例】普段の生活の話、どのように視覚が不自由になったのか、普段使っている自助具について、以外と気が付かない身近な点字のついたもの、(女性講師の場合)糸通しを見せる、子育ての話、(古家さんの場合)義眼を見せる、色識別装置を使って色を知る



点字の打ち方の説明

イラストなどを交えて分かりやすく点字の基本と主なルールを説明します。



点字体験

簡単な単語(あおいそら等)／自分の名前／学校名／例文／自分の住所など…
低学年の場合、濁音や拗音を使用しない簡単な単語が易しく取り組みます。
学校のご要望に合わせた点字体験を行います。希望の内容を講師にご相談ください。



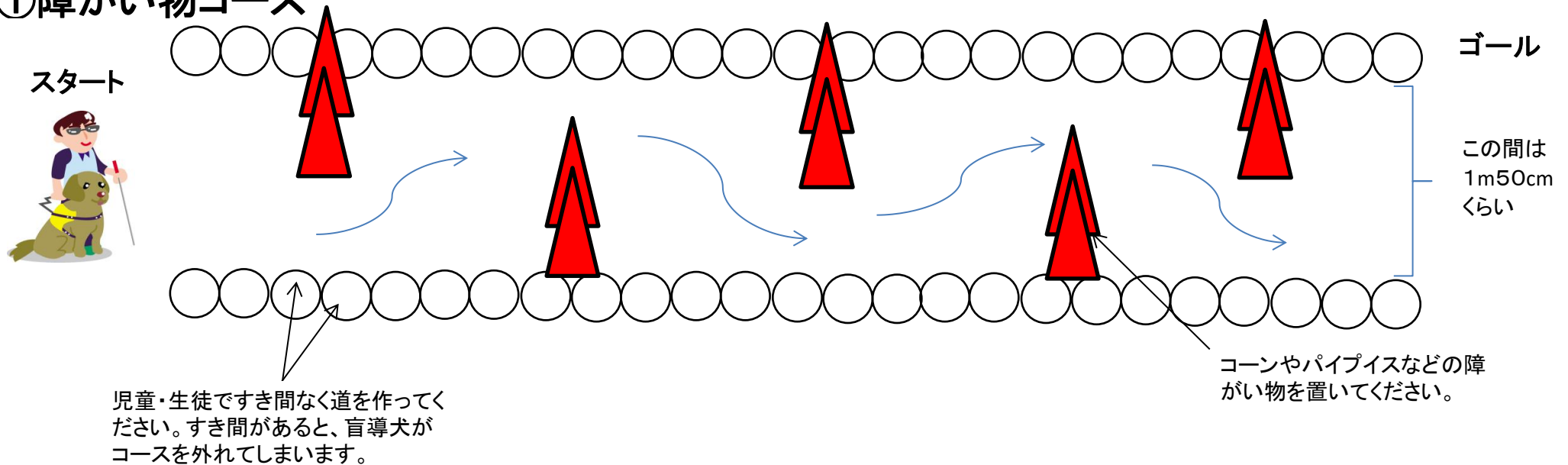
点字体験

できた点字の文章を講師に読んでもらいます。

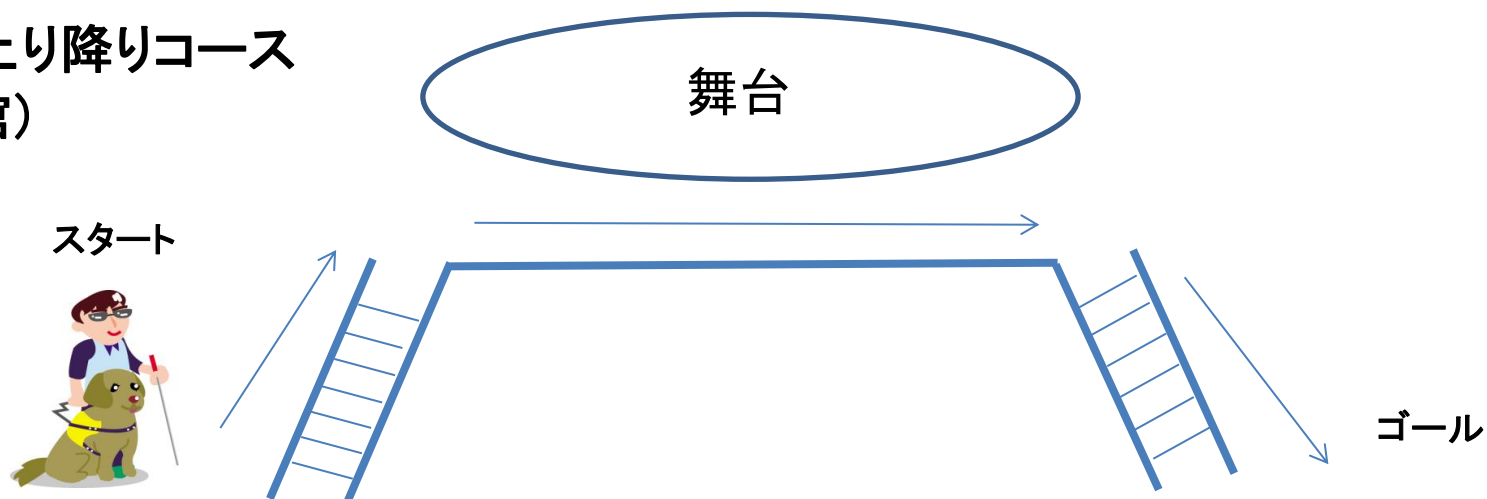
盲導犬の見学コース設定について(例)

資料③

①障がい物コース



②階段の上り降りコース (体育館)



歩行の様子

資料③

体育館



校舎内



体育館でコーンを使用した場合



ガイドヘルプ 基本的な流れ

資料③



①視覚障がい者についての講話

白杖についての説明、視覚障がいといっても障がいの程度は様々であり、先天性と後天性があるということ、視覚障がい者が外出するときの大変さ…などの内容をベテランガイドヘルパーがお話します。



②-1ガイドヘルプの方法について説明

実演しながらガイドヘルプの基本姿勢、注意点、歩行方法、狭い道の歩行方法、椅子に座るときのガイドなどを説明。コースの説明。



②-2ガイドヘルプ体験

2人1組で、視覚障がい者役とガイドヘルパー役を体験します。交代して両方体験します。講師は危険と思われる個所(階段、段差など)につきます。



③視覚障がい者のための自助具(便利グッズ)の見学

つえの里で扱っている自助具を見てもらいます。白杖、2人傘、点字絵本、点字トランプ、音声コード識別装置、色認識装置など…



(時間が余った場合)目隠しをして自分の名前や絵を描いてみよう

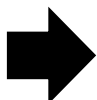
※多人数での実施の場合は①～③をローテーションして実施することをおすすめします。

アイマスク体験 基本的な流れ

資料③

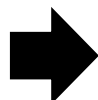
①事前学習

視覚障がいのある方が外出する際に必要となる白杖、盲導犬、ガイドヘルプがどのようなものなのかを学習してください。
学校にある教材やインターネット、冊子「やさしさはほっとする」を使用していただけいてもかまいません。



②事前学習のおさらい(導入)

講師より事前学習の内容を確認します。



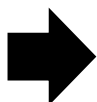
③声の聞こえる方向が変わる体験

全員にアイマスクを渡し、装着していただきます。アイマスクを装着した状態で、講師が話をします。始めは児童、生徒の正面に立って話しますが、次第に後ろから話すなど方向を変えて話をします。音の聞こえる方向が急に変わる体験を通し、視覚障がいの方に対し、どのような声かけが良いかを考える機会になります。



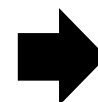
④折り紙を折る体験

講師から声のみで折り方を伝えていきますので、アイマスクを装着した状態で声のみの説明と指の感覚を使い、見えない状態で折り紙を折ります。その後、アイマスクを外し、見える状態で折り紙を折ることで、見るときとそうでないときの違いや注意点を確認します。



⑤視覚障がいのある方向け自助具体験

講師より自助具の紹介を行います。その際に、アイマスクを装着した代表の児童、生徒数名に実際に使用していただき、感想などを聞いていきます。視覚に障がいがあっても道具や少しの工夫があれば自分で生活できることに気づきます。



⑥まとめ

講師より、人によって見え方が様々に違うことや児童、生徒ができることを説明します。質問等があればこの時間に伺います。

手話 基本的な流れ

資料③



講話

聴覚障がいについて、「見える障がい」「見えない障がい」があり、聴覚障がいは「見えない障がい」であり外からは分かりにくい。聞こえないためにいろいろな情報が入ってこない(例: サザエさんの家族構成が分からなかった)などの話をします。
先生のご要望をお伝えください。

聴覚障がい者とのコミュニケーション方法について

聴覚障がい者＝手話と思われがちだが、「手話」以外にも「口話」「身ぶり」「空書き」「筆談」といったいろいろなコミュニケーション方法がある。
手話以外の方法も体験してもらいます。

口話体験

言葉を発した口の形で言葉を伝え合います。
講師の口、児童・生徒同士の口を読み取ります。写真のように口の形の似ている言葉や文章は読み取れますか？



身ぶり体験

児童・生徒の代表に身ぶりで何かを表現してもらいます。(動物・食べ物など)写真はブドウを表現しています。

手話体験

あいさつ／数字／色の名前／自分の名前／伝言ゲームなど・・・学校のご要望に合わせた手話体験を行います。

要約筆記 基本的な流れ

資料③



「講話」

聞こえにくさは千差万別です。日常生活の困った！と感じていること、またどんな工夫をしながら暮らしているのかをお話します。聞こえない人は、その人の聞こえに合わせて、さまざまな方法でコミュニケーションをとっています。すべての聞こえない人や聞こえにくい人が手話でコミュニケーションをするわけではありません。よりよい会話のために、コミュニケーションのコツを教えます。わかりやすく伝えるため、紙芝居やクイズを使用する場合があります。



「要約筆記についての説明」

要約筆記について説明します。よく使用する要約筆記の略語を説明する場合もあります。筆談をする場合にも役立つので、その場の他の人の話を聞いて伝えるコツを説明します。低学年児童には、自分の話を書いて伝える筆談の説明をします。



「要約筆記体験」

近くに聞こえにくい人がいるという設定で、子どもたちの身近にあふれる場面や災害時の避難所などを想定した内容の要約筆記を自席で行います。低学年の児童・生徒は、テーマに沿った内容の要約筆記を各々の席で行います。有志の生徒数名は教室前方のOHCで皆の前で要約筆記を行います。



「まとめ」

耳マークやコミュニケーション支援ボードの紹介など、子どもたちに知っておいてほしいことを最後にお伝えします。質疑応答など。

発達障がいの理解 基本的な流れ

資料③



講話
 ・はっぴいりんぐの会の紹介
 ・自閉症の特徴や割合などについて簡単に話



体験①ぶかぶかの軍手をはめて、折鶴を作ろう
 指先の感覚が違う人もいること、本人は一生懸命取り組んでいても、なかなかうまくできないこともあるので「急いで」「汚い」などの声掛けをすると気持ちが焦ってしまうので、「ゆっくり待つ」ということが大切だということを理解します。



授業を進める中で、話に出てきた関わり方の「よい例」「わるい例」を掲示して、目で見て分かるようにします。



体験②よく見えないペットボトルメガネを使って写真を見よう
 視野が狭く、全体を見渡すことが苦手だとどんな風に見えるのか体験します。



体験③動物クイズを4人が同時に出题
 4人が同時に違う文章を喋ったときに、誰が何を言っているのかが聞きづらい体験。周りがざわついていると、1つの音を聞くことが難しいということを知ってもらいます。



<休憩>
 ・講師の家庭で使っている自助具の見学
 ・授業中に軍手の体験やペットボトルの体験ができなかった子も自由に体験できます。



体験④ピカピカ劇場
 「ピカ」しか言葉がない世界で、言葉が伝わらないとどういう気持ちになるのか体験します。
 ※先生に劇に協力していただきます。



体験⑤お母さんの話
 子どもが生まれた時からの生い立ちをパワーポイントや写真を通して話します。

体験⑥ことばを絵にしてみよう
 固有名詞や形容詞をテーマに絵を描く(例:りんご、5個、ちゃんと、平和など...)
 言葉には「見える言葉(絵にできる言葉)」と「見えない言葉(絵にできない言葉)」があることを体験を通して理解する。
 自閉症の人には「見える言葉」でものごとを伝える、という説明をします。



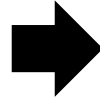
まとめのお話
 体験を通して学んだ自閉症の方との接し方や、自閉症の子を持つ母としての思いをお話します。

※詳しい物品や数は必ず講師に確認してください。

- <主な必要物品>
- ・マイク
 - ・プロジェクター
 - ・スピーカー
 - ・スクリーン
 - ・パソコン用の机といす
 - ・長机
 - ・ホワイトボード
 - ・棒磁石
 - ・講師用のいす
 - ・・・など

ダウン症の理解 基本的な流れ

資料③



・知的障がい、ダウン症について

障がいには聴覚障がい、視覚障がいなど色々な種類がありますが、その中で知的障がいとはどういったものか、またダウン症とはどういった障がいなのか、お話します。

・エンジェルの会について

エンジェルの会についてご紹介頂きます。また、エンジェルの会に所属しているダウン症の**子ども**たちの、生まれてから現在に至るまで元気に活躍している姿についてご紹介して頂きます。
(講師の方以外に、実際に実践教室を行う学校に通っている子どもがいる一般の保護者の方にもお越しいただき、お話していただく場合もあります。)

・DVD鑑賞「健ちゃんと一緒に」

ダウン症の少年が主人公のDVDを鑑賞します。(20分程)
遊び相手がおらず、一人で遊んでいる**ダウン症のある少年**が、家族・クラスの仲間の思いやりの気持ちによって輪の中に入ることができるようになるまでのストーリーです。

・ダウン症の方の特徴

書籍「ダウン症の**子ども**たち」に基づき、ダウン症の方の考え方や行動の特徴について、お話します。(エンジェルの会様のほうから黄色いミニ冊子を**子ども**たちに配布します。こちらのミニ冊子に基づく説明になります。)

・親の立場からの思い

ダウン症の子を持つ母としての思いについて、**子ども**たちへ向けてメッセージを送ります。



※詳しい物品や数は必ず講師に確認してください。

<主な必要物品>

- ・マイク
- ・プロジェクター
- ・スピーカー
- ・スクリーン
- ・パソコン用の机といす
- ・長机
- ・講師用のいす

…など

高齢者擬似体験 基本的な流れ

資料③



導入

高齢者についての講話
※ホワイトボード又は黒板、チョーク又は太いホワイトボードマーカーをご用意ください。



高齢者擬似体験セットの装着方法の説明



高齢者擬似体験セットの装着

2人1組(体験者、介助者)で装着をします。装着後、A～Cの体験の中からいくつかを行います。体験後、体験者と介助者の役割を交代し、もう一度体験します。

A



①体験「指の動きにくさ」

手作りの自動販売機にオモチャのお金を入れ、ペットボトルのキャップを開け閉めすることで、指や手が思うように動かず、時間がかかることを体験します。
⇒周りの人が「手伝う」ことや細かい動作に時間がかかるため「待つ」ことの大切さに気づきます。

B



②体験「歩行」「足の曲がりにくさ・上げにくさ」

介助者と平坦な道と階段を歩行し、足の曲がりにくさ、上がりにくさを体験します。
⇒どんな場面で不自由さを感じるか、どんなサポートがあるとよいかに気づきます。

C



③体験「見えにくさ」

ゴーグルをつけながら、色、細かい文字、光の具合での見えにくさの違いを体験します。
⇒普段の見え方との違いに気づきます。



振り返り

児童・生徒に感想や自分のできるお手伝いについて発表してもらい、それを基に、振り返りをします。
(高齢者から幸齢者へ、ふくしとは等)

高齢者擬似体験 装具の装着について

指の第一関節が出る程度までゴムバンドを装着



サポーターでひざの関節の曲がりにくさ、おもりで筋力の低下を体験します。サポーターと肌が直接接触れないよう、バンダナ等をまいてください。



手袋(薄い手袋とサポーターの2枚重ね)で指先の感覚の鈍さ、おもりで筋力の低下を体験します。



サポーターでひじの関節の曲がりにくさを体験します。サポーターと肌が直接接触れないよう、バンダナ等をまいてください。



白く濁ったレンズの入ったゴーグルで、白内障と視野狭窄の体験をします。イヤーマフをつけ、耳が聞こえにくくなる体験をします。イヤーマフと耳が直接接触れないよう、タオル等をかけてください。

◎セット内容◎ ※手足は片側のみ、利き手側に装着

①ゴーグル



②イヤーマフ



③手・足関節サポーター
大きいサイズ



小さいサイズ



④手・足おもり



⑤手袋

